

育ち合い、学び合い つなげよう未来へ

— 幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続モデル集 —



考えよう



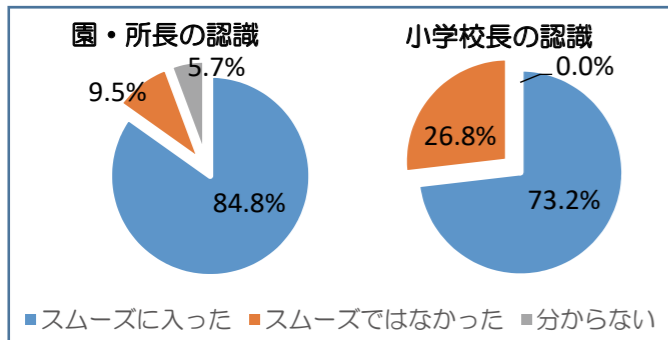
活動しよう



働きかけよう

データから見る奈良県の状況

本県では、幼児期の教育と小学校教育の接続期実態調査を行いました。
 ○小学校入学当初の小学1年生の小学校生活への適応状況（平成28年度）



小学校生活への適応状況については、「スムーズではなかった」と回答する小学校長 26.8%に対し、園・所長は 9.5%と低くなっています。また、「分からない」と回答する園・所長が 5.7%いました。その理由としては、「小学校への適応の状況を知るような見方をしていない」と、子どもの姿の共有の場を有効に活用できていないことが分かります。

スムーズでなかったと考える理由

1学年担任		5歳児担任	
クラス全体の話を聞けない	23%	小学校教員等の話から	27%
授業中立ち歩く	17%	保護者の相談から	16%
登校を渋る	14%	登校を渋る	12%
児童同士のトラブルが多かった	13%	クラス全体の話を聞けない	12%

「スムーズでなかったと考える理由」として、1学年担任は、「クラス全体の話が聞けない」、「授業中立ち歩く」など、授業の進行に支障をきたす状況を挙げています。5歳児担任は、小学校教員や保護者との会話の中から感じ取っています。また、登校を渋る子どもも多いと見られることから、目の前の事象だけではなく、子どもの内面に目を向けることも必要であるといえます。

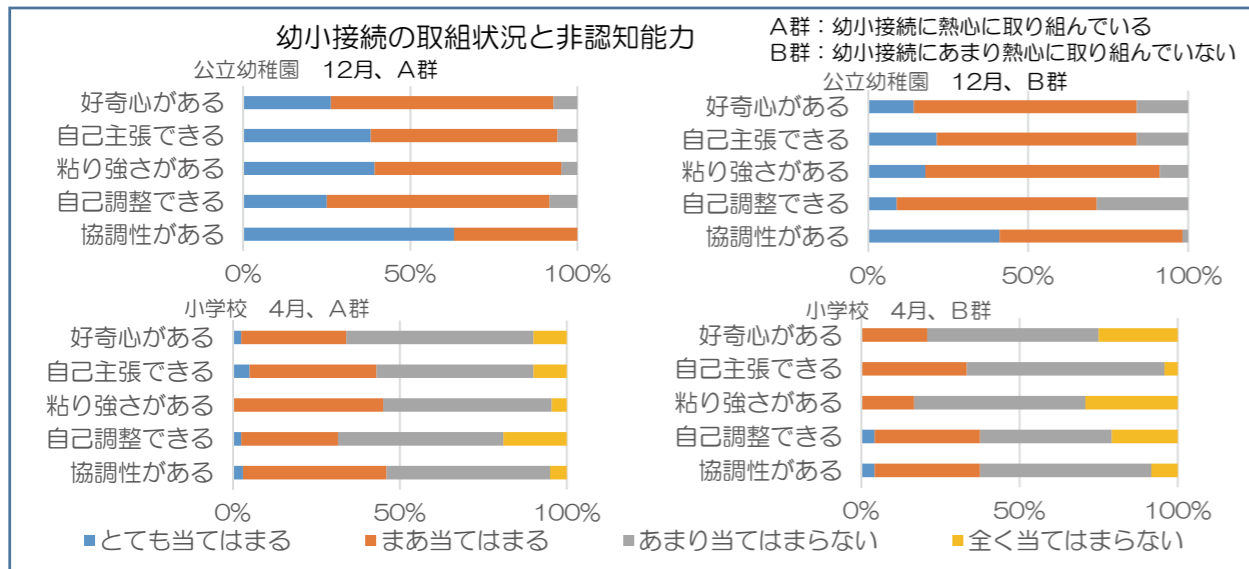
○幼小接続の取組状況と非認知能力（平成29年度）

幼小接続に「熱心に取り組んでいる」と回答した校・園の方が接続期において、非認知能力（好奇心、自己主張、粘り強さ、自己調整、協調性）が高い傾向があります。

項目ごとにもみると、公立幼稚園では、幼小接続の取組を熱心に取り組んでいる（A群）の園の方が非認知能力のすべての項目において「とても当てはまる」（非認知能力が高い）が、あまり熱心に取り組んでいない（B群）の園よりも高くなっています。

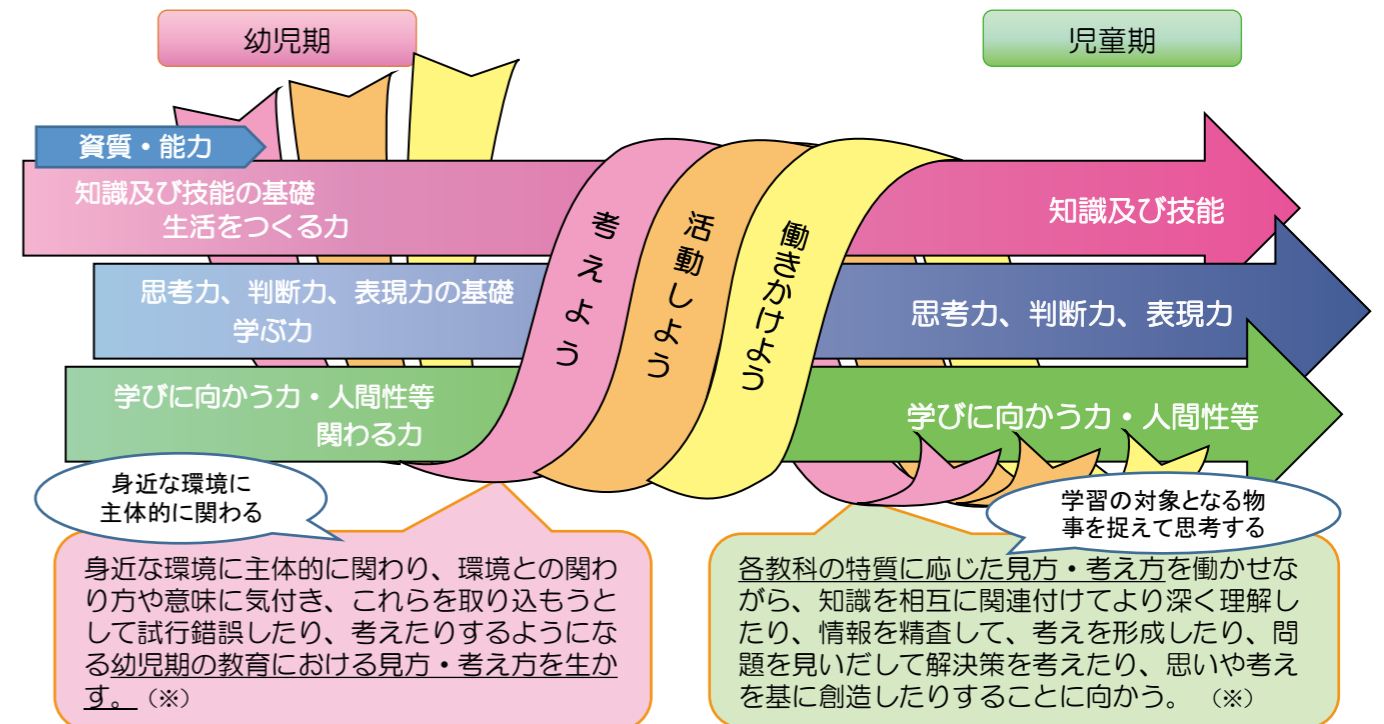
小学校においては、好奇心、粘り強さの項目で「とても当てはまる・まあ当てはまる」と回答するA群の小学校がB群のそれを大きく上回っています。

幼小接続の取組の中でも「学びに向かう力、人間性等」の力を養うことができます。



平成29年3月改訂幼稚園教育要領等と小学校学習指導要領から見る幼小接続の在り方

平成29年3月に、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「保育所保育指針」、「小学校学習指導要領」等がそろって改訂されました。幼稚園教育要領を初めとする就学前の要領及び指針は平成30年度、小学校学習指導要領は平成32年度全面実施となります。



「資質・能力」は、各要領及び保育所保育指針に示されることから、幼児教育から高等学校教育までを貫くものである。これに合わせ、接続期には生活をつくる力、学ぶ力、関わる力に着目し、具体的な取組を組み立てます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と接続期の指導



幼稚園教育要領等と小学校学習指導要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、情報交換をすることで、接続期の子どもたちの育ちを共有することができます。（具体的な姿は28ページ参照）

(※)は平成29年3月告示「幼稚園教育要領」及び「小学校学習指導要領」から引用

ねらいを、「3つの力」に分類して記載している。

ねらい

つなげたい3つの力	△生活する力	基本的な生活習慣（健康） 生活態度（ルール） 食事 排泄	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 健康な心と体 自立心 協同性
	★関わる力	あいさつ、返事 伝え合い 人との関係作り	道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 言葉による伝え合い 思考力の芽生え
	◎学ぶ力	意欲的に遊ぶ 身近な環境へのかかわり （自然、数量、文字等） 身体を動かして遊ぶ 様々な方法で表現する力 （絵画、製作、歌、言葉等）	自然との関わり・生命尊重 数量・図形、文字等への関心・感覚 豊かな感性と表現

幼小接続における具体的な指標である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明記するとともに、幼稚園での生活や遊びを通して育んだ「3つの力」と、小学校入学当初に培いたい「3つの力」との関連を、より分かりやすくするために「つなげたい3つの力」として併記している。

主な活動と内容
△生活する力
★関わる力
◎学ぶ力

幼稚園では、生活や遊びを通して総合的に「3つの力」を育み、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が個々に育つように取り組んでいる。

内容についても「3つの力」に分類して記載している。

5歳児と5年生(次年度の新1年と新6年)の交流を積み重ねている。また、小学校への期待が膨らむように保幼小で交流する機会をもちたり、1日入学の工夫をしたりする。

◇留意点
◆環境構成

幼小接続

交流
教職員

家庭・地域との連携

様々な場面での幼児の姿を小学校教員が参観したり、幼小連絡会の機会を多くもつなど、幼児の実態や幼稚園生活が小学校にも伝わるような工夫をする。

【これまでのカリキュラムとの違い】

これまでは幼小それぞれのカリキュラムを作成していたが、つなげたい「3つの力」を核に、幼稚園・小学校が意識して接続していけるようにカリキュラムを作成した。

10月中旬から3月（指導計画のⅣ期、Ⅴ期）

- △季節に応じた健康習慣が分かり、落ち着いた生活を送る。
- ☆共通の目的に向かって協力しながら活動に取り組み、自信や充実感を味わう。
- ◎季節の移り変わりに興味や関心をもち、その変化や美しさに気付く。
- ◎小学校入学への期待や自覚をもち、修了に向けた活動や行事に意欲的に参加する。

・健康的な生活に気を付けるようにする。(手洗い、うがい、衣服の調節 等)
 ・活動と活動の間にトイレに行くなど、時間を意識して行動しようとする。
 ・片付けや持ち物の整理等、自分から進んできちんと始末する。
 ・当番活動を通し、自分の役割を責任をもって行動しようとする。
 ・マナーを守って一定時間内で食事をする。

・自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めて聞いたりする。
 ・地域の人や小学生、他の保育園や幼稚園の幼児との関わりを通して、相手を思う気持ちをもち。
 ・絵本や物語を見たり聞いたりして、想像する楽しさを友達や教師と共有する。
 ・友達と相談したり協力し合ったりしながら遊ぶ楽しさを味わう。
 ・お世話になった方に感謝の気持ちを伝える(修了式等)

・身近な自然に興味や関心をもち、その変化や美しさ等気付いたことを友達や教師に伝え合
 い共感し合ったり、遊びに取り入れたりする。
 ・感じたことや思ったこと等を、いろいろな方法で素直に表現する。
 ・戸外で体を動かし、進んで色々な運動を楽しむ。
 ・音楽に親しみ、みんなと一緒に歌ったり様々な楽器を使って音色やリズムを楽しんだりす
 る。
 ・絵本や物語に積極的に親しみ、自分の思ったことや考えたことを意欲的に表現する。

アプローチカリキュラム ①小学校生活を意識した生活の工夫 ②協同的な遊びや体験の充実
 ③様々な人との関わりを楽しめる活動 ④学びの芽を大切に活動の充実
 ⑤就学への期待をもつ活動の充実 ⑥家庭と小学校との連携

活動	○ごっこ遊び(お店屋さんごっこ、葉っぱ温泉、郵便ごっこ、物語、学校ごっこ 等) ○運動遊び(跳び箱、鉄棒、縄跳び、サーキット 等)○描いたり作ったりする ○楽器遊 ○自然に親しんで遊ぶ(秋：虫取り、木の実・木の葉集め 等、冬：霜柱等を見つける、 ○栽培活動をする(冬野菜、球根の栽培 等)○お正月遊び(カルタ・こま回し・凧あげ・ ○物語の世界で遊ぶ(物語に出てくるものになって遊ぶ、遊びに必要なものを作る【生活 ○様々な人との関わりを楽しむ(ともだちひろば、初詣、キッズサッカー、英語で遊ぼう、 等) 等	びをする【音楽会】 氷を作る 等) 羽つき等) 発表会】 矢田南レンジャー
内容	△病気や怪我等の予防に関心をもち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身に付け △1日の生活の見通しをもち、時間を意識して行動する。△当番活動や先生の手伝い等を積 △背筋を伸ばす、椅子に座る等正しい姿勢に気を付ける。☆自分の考えを相手に分かるよう ☆自分の気持ちを伝えたり、相手を受け入れたいしながら、友達と分担したり協力したりして ☆様々な人との交流を楽しみながら、相手を思う気持ちをもつ。 ◎心を動かされるような体験をしたり、友達と一緒に楽しむ活動をしたりする。 ◎日常生活に必要な文字や数字、標識に興味をもつ。 ◎身近な動植物や自然現象に関心をもち、季節の変化や自然の不思議さを感じたり遊びに取 り入れたりする。 ◎自分の思いや考えを様々な方法で表現したり、友達と一緒に生活発表会を作り上げる喜び を味わったりする。	る。 極的に行う。 に言葉で伝える。 遊びを進める。

◇うがい・手洗いを丁寧にし、天候や活動内容に応じ、衣服の調節ができるように声をかける。
 ◇思いや目的を共有して協同的な遊びが進められるように、遊びの後の話し合いをし、集団遊びを多く取り入れたりする。
 ◇様々な年代の人との交流を楽しむ機会を多くもつ。
 ◇幼児の主体性を大切にし、自ら工夫をしたり、友達と一緒に相談したりしながら遊び方やルールを考えていけるようにする。
 ◇身近な自然の変化や事象にないようになり、実際に見たり多くもつ。
 ◇小学校生活に触れた絵本等のトイレを利用する機会を
 ◇小学校施設を利用した活動機会を継続してもつ。
 ◆時間を意識しながら生活で工夫し、1日の大まかな時

・矢田南ランドで遊ぶ、絵本の読み聞かせ、給食体験等(5年生) ・ドングリ転がし作り(1年生)
 ・就学時健康診断(5年生の案内で) ・あきまつり(2年生、地域の保育園) ・1日入学(1、2年生)

・就学児の様子を小学校教員が参観する。(園内研究会、音楽会、生活発表会等)
 ・幼小連絡会をもち、就学する幼児の様子を小学校に伝える。

・子どもたちの成長の様子を伝え、一人一人の頑張りや成長を認めてもらえるように、学級級懇談会を通じて知らせる。
 ・就学に向けて小学校での生活の様子や準備等について情報を伝えたり、保護者の疑問や不安ながら、保護者も子どもも安心感がもてるように配慮する。
 ・規則正しい生活習慣を身に付け、自ら持ち物の整理整頓等できるように、園と家庭が連携して取り組む。
 ・地域見守り隊の方々等と連携し、通学路の安全について保護者に啓発していく。

期待をもって小学校入学に向かっていけるよう、就学に対する不安に寄り添うとともに、家庭や地域との連携を密にとる。

4月～5月中旬

- △学校の様子や生活の仕方を知る。
- ☆教師や友達、上級生等に関心をもち、共に生活を送る楽しさを味わう。
- ◎学習の準備の仕方や、授業中の約束事を知る。
- ◎文字や数の読み書きを楽しく学ぶ。

・健康的な生活に気を付けることができるようになる。(手洗い、うがい 等)
 ・時間割やチャイムに合わせて行動する。
 ・自分の持ち物の整理整頓の仕方が分かる。
 ・給食の配膳や食事の流れが分かる。
 ・当番や係活動、掃除の仕方が分かる。

・教師や友達に親しみの気持ちをもって挨拶をする。
 ・教師や友達、上級生に関心をもち、進んで関わろうとする。
 ・自分の思いを伝えたり、困っていることを話したりする。
 ・友達の思いを知り、仲良くしようとする。
 ・順番やルールを守って、友達と一緒に遊んだり活動したりする。

・自分の席で学習する楽しさを味わう。
 ・自分の考えや感じたことをのびのびと表現する。
 ・遊具等の使い方を知り、安全に大切に使うようになる。
 ・文字や数字に興味をもち、使うことに喜びを感じる。
 ・友達と一緒に歌ったり、体を動かして楽しく運動したりする楽しさを味わう。

スタートカリキュラム ①生活科を核とした総合的な指導 ②遊びを取り入れた楽しい活動
 ③時間配分の工夫 ④環境構成の工夫 ⑤複数の教師や上級生によるサポート
 ⑥児童が学校生活に馴染めるようになるための行事の工夫

学校行事 主な活動	・入学式(6年生) ・名刺交換、学校探検、遠足(2年生) ・1年生を迎える会(全校児童) ・分団下校(地域)
生活科を核とした総合的な活動	生活科(A) 道徳(B) 特別活動(C) 他教科(D)
	△ 健康な生活に必要な基本的な生活習慣(トイレの正しい使い方を知り、適切な時間に行く。A B C D 手洗い・うがいの効果を知る。 衣服の着脱や気温に応じた調節等)

年長時に交流したことがある学年との関わりを大切にしている。

「3つの力」を総合的に指導できるよう、それぞれの教科の中に意識的に取り入れている。

◇友達に親しみをもてるようにするために、朝の会の進め方や、朝の挨拶の工夫をする。
 ◇学校生活に慣れるまで、必要に応じて上級生が手伝いを授ける環境を整える。
 ◇子どもが下校に慣れるまで、安全を確保するために解散の場所まで引率する。
 ◇授業や遊び、生活の中で、子どもができたことを認め、教室やトイレの壁面を飾って楽しい雰囲気をつくり、安心できるようにする。
 ◇年長児に交流のあった学年と進んで関わることを目指す。 ◆掲示物を工夫し、視覚的に示しながら指導する。

学習規律や授業時間等基本的なことは指導していくが、決まり事を徹底するのではなく、充実感や達成感が味わえるように、児童の実態に合わせて授業内容を設定していく。

・幼稚園新教育要領についての理解を深める。 ・幼稚園での様子や家庭環境等について情報交換する。
 ・今年度の交流について計画を立てる。 ・幼稚園での経験と小学校での学習活動についての相互理解に努める。
 ・幼稚園教師が様々な学校生活の場面を参観し、子どもの成長や課題について共通理解する。

・学年通信を通して、子どもたちが頑張っている姿や困難さを感じる場面等について保護者に伝えていく。
 ・授業参観や学級懇談会を通して、保護者と学習内容を共有し、家庭と連携した家庭学習の充実を図る。
 ・解散場所までのお迎えに保護者の協力をお願いする。
 ・家庭訪問を通して、家庭での生活の様子等をしっかりと把握する。
 ・連絡帳や電話でのやり取りを通して、保護者が安心できるように努める。
 ・安全パトロール(子ども支援ボランティア)の方に、登下校時の安全を見守る活動の協力をお願いする。

H30年4月施行の幼稚園教育要領に示されるように職員研修の機会をもつことが重要である。

家庭・地域との連携を密にとれるように、児童の様子を家庭に伝えたり、小学校と家庭・地域が繋がる機会をもつようにしたりする。

環境構成の工夫



1日の活動の流れや手順がわかるような環境の工夫

上級生の手伝いの見直し（給食）



給食始まりから自分たちで配膳

例年は6年生が配膳していたが、できるだけ自分たちでできるようにした。おかずを平等に分けられなかったりこぼしたりした時は、担任や他の教員のサポートが必要ではあるが、自分たちで配膳することへの憧れの気持ちを大切に。6年生には、牛乳パックや食器の片付け方等必要なところだけを教えてもらうようにした。

【授業内容の工夫】

☆体育

保育園や幼稚園で経験したことがあるリズム遊びを取り入れた。「じゃんけん列車」をした後に、学校生活には欠かせない1列や2列の並び方の練習を行った結果、とても意欲的に取り組むことができた。

☆音楽

初めて聞く小学校の「校歌」からではなく、主に保育園や幼稚園で歌ってきた歌や手遊びを取り入れ、安心して楽しめるように工夫した。出身園で振りが違うことに気付いた児童に、「どうやるの?」と投げかけることで児童同士が教え合う姿も見られた。また、これまで5時間目に入れることが多かった音楽を月曜日の1時間目を実施し、1週間の始まりを無理なくスタートできるようにした。



音楽の授業の工夫

学校で勉強するのが楽しくなる工夫

- ・1時間目の授業内容の工夫
- ・柔軟な授業時間の工夫
- ・学習形態の工夫（ペア学習等）
- ・友達と一緒に歌ったり体を動かしたりする時間の確保
- ・遊びや授業、生活の中等でできたことに対する認め

等



トイレの掲示物の工夫

小学校の1日の流れや生活の仕方を知るための工夫

- ・安心して学校生活を送れるための環境の見直し（掲示物の工夫）
- ・保育園や幼稚園での生活経験を活かした当番活動
- ・必要に応じた上級生の手伝い
- ・複数の教員のサポート
- ・下校指導

等



手洗い指導



様々な場面での当番活動



弁当の当番活動



自分の持ち物の整理

小学校生活を見据えた基本的な生活習慣の確立

- ・持ち物の整理整頓
- ・活動の間にトイレをすます
- ・姿勢指導や保健指導
- ・当番活動の充実
- ・1日的大まかな活動の流れの提示

等

生活する力

【幼小の教職員】

- ・様々な場面での児童の観察
- ・園内研究会の参加
- ・活動事前事後の打ち合わせ
- ・カリキュラム作成
- ・研究授業への参加
- ・就学前の幼児様子を参観する

同士の交流】

児童の様子を参観する

ち合わせに向けた研修

を参観する

学ぶ力

遊びや活動を通じた園児の学び

- ・協同的な遊び
- ・身近な自然との関わり
- ・様々な表現活動
- ・運動遊び
- ・絵本や物語に親しむ

等



協同的な遊び



運動遊び



歌やダンス



ペア学習「あわせていくつ」

【学習形態の工夫】

ペアやグループ単位で行うと、どの児童も抵抗感なく学習に取り組むことができる。そこで、友達と一緒に勉強を楽しむことができるようなゲームを多く取り入れた。

成果と課題

- ・「つなげたい3つの力」をもとにカリキュラムを作成し、幼稚園・小学校のそれぞれの生活を併記することで幼小の繋がりがより分かりやすくなった。
- ・幼稚園で経験したことが小学校の生活や授業のどのようなところで生かされるのかを考えたことで、児童が無理なく学校生活に慣れ楽しく学習に向かう土作りができたのではないかと考える。
- ・担当の教員だけでなく、幼稚園・小学校全体で接続カリキュラムの重要性を共有するとともに、近隣の保育園等にも啓発していくことが今後の課題である。

【2年生との交流】

1年生にとっては、身近で頼れる2年生のお兄さんお姉さんと一緒に学校探検をしたり名刺交換会をしたり一緒に遊んだりすることで、学校に親しみをもち学校生活に馴染みやすくなる。2年生は、学年が上がったことを自覚し、1年生に優しく接していこうという気持ちをもって取り組むことができる。

遊びの時間の確保



近隣の保育園・幼稚園との交流「ともだちひろば」



他園児とサッカーのチーム分け

様々な人との関わりを楽しめる機会

- ・入学時に、新しい友達がたくさんいる環境に戸惑わないように、他の保育園・幼稚園の園児と交流する機会を継続してもつ。
- ・1年生、5年生との継続した交流の機会を大切にする。

等



研究授業への参加



園内研究会討議の様子

関わる力

【朝の会の工夫】

朝の会で「げんきしらべ」と称して挨拶と返事をするようにした。また、簡単な自己紹介を取り入れたり、おもちゃのマイクを使ったりしながら、遊び感覚で楽しく活動できるように取り組んだ。マイクを順番に渡す際に、「はいどうぞ」「ありがとう」などのやりとりも自然と生まれた。互いのことを知ったり、友達と仲良くなった感じがきっかけになった。



オセロゲーム



絵本の読み聞かせ



給食体験



カブラ



シャボン玉で遊ぼう



ドングリ転がし作り



あきまつり



1日体験入学の工夫
鉛筆の練習（2年生と） 遊びのお店（1年生と）



入学式（6年生と一緒に入場）



名札付けの手伝い

- ・入学式のサポート
- ・登校時の身支度の手伝い
- ・掃除等の手伝い
- ・休み時間の自然な交流

等

【6年生と5年生の時に年長のため、1年生にればよいのかを自伝いをする姿が見1年生にとって流を積み重ねてきさんが手伝いに来安心して様子

の交流】 児と関わってどのように関わら考え、進んで手られた。も、これまでに交たお兄さんお姉てくれることで、が見られた。



学校探検



名刺交換会



遠足

- ・学校探検、名刺交換会、遠足
- ・運動会運動表現
- ・あきまつり（幼稚園児、保育園児と一緒に）

等

カリキュラムにおける重点ポイント

幼稚園と小学校の教育内容の違いを理解し合い、 幼小接続期に育てたい3つの力を柱として、子どもたちの主体的な活動を中心としたカリキュラム作りを工夫した。

小学校の学びに向けて 育てたい子どもの姿

- 年長児としての自覚をもち
 - 遊びを楽しみ、最後までやりとげる子
 - 思いを自分なりに表現し、相手に伝えられる子
 - きまりを守り、友達と一緒に行動できる子
- を育てていく。

保護者との連携

- 小学校に向けて身に付けてほしい生活習慣について伝え、家庭での協力を促す。
- 園で頑張っている姿を伝え入学への不安を和らげる。
- 通信などを通して小学校とのつながりを知らせる。

保育の工夫・留意点

幼稚園では、自覚的な学びにつながるような保育内容の工夫をする。



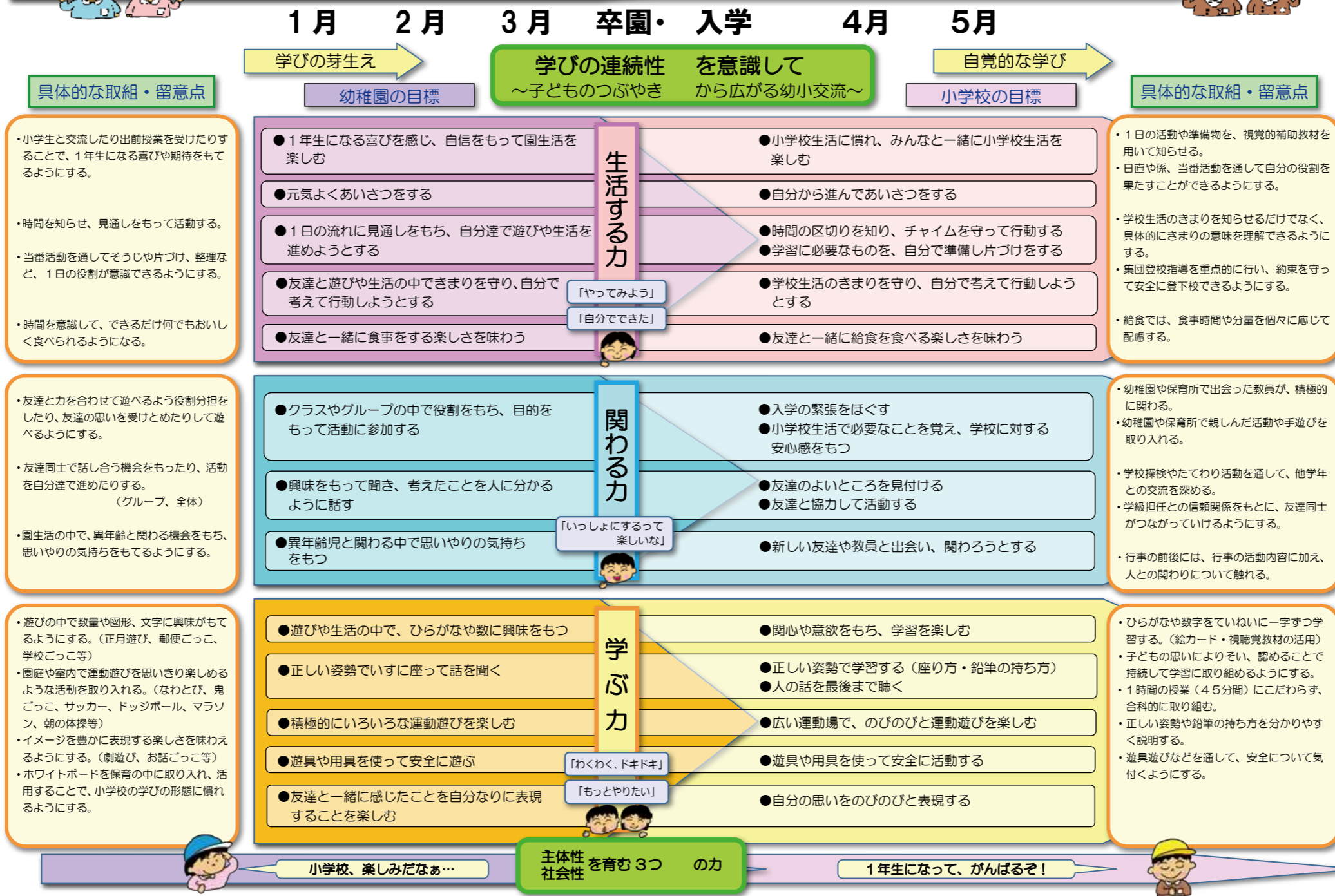
アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム



幼稚園での学びを受けて 育てたい子どもの姿

- 子どもの思いを教員が受け止めることにより
 - 新しい環境に慣れ、意欲的に活動できる子
 - 自分の思いをみんなの前で伝えられる子
 - ルールを守って、友達と協力して活動できる子
- を育てていく。



保護者との連携

- 幼・保の教職員から子どもや保護者の様子を聞き取り、個に応じた対応ができるようにする。
- 入学当初の不安について、保護者の思いを十分聞き取る。

指導の工夫・留意点

小学校では、幼稚園で培われた力が発揮できるように教科学習で合科的な学習を取り入れる。

幼小接続を通して

子どもたちの変化

丹波市幼稚園

- 小学生に教えてもらったことや関わり方から、園でも、年少や年中児に優しくしたり、学んだことを伝えようとする意欲が高まった。
- グループでの話し合い活動を取り入れることで、自分の思いを伝え合い、自分たちの生活を主体的に進めようとする意欲が高まった。

丹波市小学校

- 入学前から小学校の教員や施設に慣れているので、安心して小学校生活をスタートさせることができた。
- 教員が「一年生だからできない」という意識を変え、自分たちでできることを任せられるようになったことで、自ら増えた。

教員の変化

- 幼小の学びの違いを理解し合うことで、つながりを意識した保育や授業づくりができるようになった。

- 合同研修や幼小連携の話し合いを重ねることで、年長児と1年生の担任間だけでなく教職員全体に連携の取組が広がった。



カリキュラムを実践するにあたっての具体的な指導・保育事例



1月

2月

3月

4月

5月



出前授業（3月）

出前授業を受け、学校クイズで小学校のことを知ったり、教員の授業を聞いて制作に取り組んだりして、楽しみながら学びます。小学校の教員に親しみをもち、小学校生活への期待がもてるようにしています。



当番活動を通して、1日の役割が意識できるようにすると共に、友達と協力して生活や遊びを進められるようにしています。



当番活動（そうじ）

生活する力

4月当初の朝の黒板

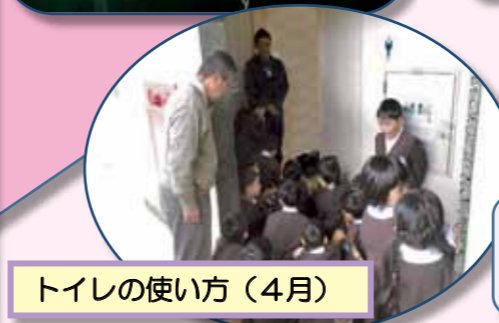


朝の準備など、絵カードを見てできるようにします。

分団長を先頭の下駄箱まで並んで歩きます。地域の方にも「おはようございます。」と、あいさつができるようにします。



あいさつ運動



トイレの使い方（4月）

学校でのルールを1つ1つ覚えます。

幼稚園や保育所で身に付けたマナーを、小学校でも生かせるようにします。



給食

グループの話合い



友達と話し合う機会をもち、思いを伝え合ったり役割分担したりできるようにしています。

生活や遊びの中で自分たちで進める楽しさを味わい、異年齢との関わりから思いやりの気持ちをもてるようにしています。

司会（朝の体操）



関わる力

絵本の読み聞かせ（4月）



幼稚園や保育所で親しんだ活動をすることで、担任の教員に慣れ、緊張がほぐれます。

出前保育



1年生を迎える会では、たてわり班でウォークラリーをしながら、他学年の人とも仲良くなれます。

たてわり活動



ホワイトボードの活用



ホワイトボードを保育に取り入れ、園生活の中で活用することで、板書での学びに自然に慣れていけるようにしています。

園庭や室内で運動遊びを取り入れ、体を思いきり動かして楽しめるような活動を取り入れています。



ドッジボール

正月遊び（かるた・すごろく）



遊びの中で数量や図形、文字に興味をもてるようにしています。

学ぶ力

運動場たんけん（4月当初）



のびのびと体を動かし、安全に活動できるように、運動場の遊具で遊びます。

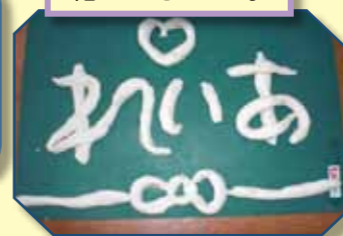
グループ学習



幼稚園・保育所でしてきた、ペアやグループでの話し合いを、学校の授業でも生かします。

幼稚園で絵をかくときのように、床に座ってのびのびと表現します。

粘土でひらがな



ひらがなに親しむことができるよう、粘土で自分の名前を作ります。



春の遠足の絵（5月）

宇陀市幼小接続カリキュラム

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

1月 2月 3月 卒園・入学 4月 5月

数人で考えたり話し合ったり、みんなに知らせたりするなど、日常生活の中で表現する力を付ける。

役割分担やグループでの協力でやり遂げる活動を設ける。

一日の時間の流れを意識しながら、見通しをもった生活ができるようにする。

話の内容に興味・関心がもてるような導入の仕方をする。

個人ロッカーの整理整頓など、自分の身の回りの整理ができるように投げかけていく。

自分の名前を文字として認識したり、絵や手紙などのやりとりを通して、気持ちを伝え合う方法の広がりを知る。

小学校生活につながる保育教育活動

・あいさつを生活目標に入れ、相手に伝わる心地よさや喜びを味わえるようにする。
・友達の前で話したり聞いたりする場面を多くもつ。
・ごっこ遊びや集団遊びを通して、楽しい雰囲気をつくる。
・友達と互いのよさを認め合いながら遊べるようにする。
・仲間を大切に、仲間のために力を出せる子どもにしていく。

人と関わる力

- 元氣よくあいさつをする。
- 相手の思いに気づき、話を聞こうとする。
- 自分の気持ちや考えを、相手に分かるように伝える。
- 友達と一緒に活動する楽しさを知る。

・時計を見ながら「長い針が6になるまでに」などと声をかけ、食事や片付け、降園時間などを意識して生活できるようにする。
・正しい着の持ち方、マナーなど子どもと再確認する。
・椅子に座って話を聞く機会を多くもち、徐々に長くしていく。
・入学前に親子で通学路を一緒に歩き、確認することを保護者に勧め徒歩での登下校を意識付ける。

生活する力

- 早寝、早起きをするともに時間を意識して行動する。
- マナーを守って、一定時間内に食べ終えようとする。
- いすに座って話を聞く習慣を付ける。
- 自分の持ち物は、自分で準備し片付ける。
- 進んでお手伝いをする。
- 安全に必要な習慣や態度を身に付ける。

・正月遊びや伝承遊びなど、いろいろな遊びを楽しむ中で文字や数字に関心がもてるようにする。
・興味をもった運動にチャレンジできるように用具を用意し、遊びの場や時間を確保する。
・友達と同じ目的をもち、考えたり協力したりする中で、活動する楽しさや目的を実現する喜びが味わえるようにする。
・バランスのとれたしなやかな身体をつくれるよう、いろいろな動きやゲーム等を取り入れる。

学ぶ力・体力

- ひらがなや数に興味をもち、自分の名前を読むことができる。
- 遊具や用具を使って安全に遊ぶ。
- 戸外で体を動かし、進んでいろいろな運動を楽しむ。
- 友達と共通の目的に向かって協力して活動する。

子どもの姿をつかむ・つなぐ (幼小の交流・連携・接続)

- 自分からあいさつをする。
- 相手の話を最後まで聞く。
- 発表のルールを知り、みんなの前で話すことができる。
- 友達と仲良く工夫しながら遊んだり活動したりする。

- チャイムに合わせて行動する。
- マナーを守って、時間内に食べ終える。
- 正しい姿勢で学習する。
- 学習に必要なものを自分で準備し片付ける。
- 約束を守って安全に登下校する。

- 正しくひらがなを読む。
- 正しい鉛筆の持ち方で文字を書く。
- 遊具や用具を使って安全に運動する。
- 集団でルールを守って、運動を楽しむ。
- 友達と仲良く助け合い意欲的に活動する。

・あいさつが人との関わりをスムーズにすることを具体的に知らせる。(「おはよう」「ありがとう」など)
・発表のルールを具体的に提示する。
・相手の話を最後まで聞くことは、相手を大切にすることであると具体的に伝える。
・隣の席の友達から人間関係づくりを始め、一緒に活動する良さを感じさせる。

・授業中の姿勢について、具体的に知らせる。
・ロッカーや机の引き出しの使い方を写真や絵などで提示する。
・予定を見ながら、自分で明日の用意ができるように保護者に協力を呼びかける。
・集団登校指導を重点的にを行い、具体的な場面で指導する。

・ひらがなや数の学習は、授業だけでなく生活場面でも機会をとらえて指導していく。
・正しい鉛筆の持ち方を具体的に指導する。
・遊具や用具を使った運動遊びを通して、体の基本的な動きを体験させる。
・号令に合わせた行動の仕方を知らせる。「(気をつけ)」「礼」「前にならえ」など)
・自分がクラスの一員であることを感じ取り、安心感がもてる活動を取り入れる。

学級の友達との関係づくりをする。

園で経験した簡単なゲーム等を取り入れ、園が違う児童と一緒に遊ぶ機会をもつ。

時計の模型などを使って見通しをもつて活動できるようにする。

写真や絵を使った可視化の工夫をする。

学用品の管理や給食の準備、片付けなど順応できるよう丁寧な関わりをする。

興味・関心を高める指導を丁寧に行い学び方を示す。

できるようになったことを一つ一つ認め、励まし学ぶ楽しさが味わえるようにする。

幼稚園、保育所等での経験を活かした指導の工夫

小学校の生活への見通しをもちながら、充実した園生活を送る。

小学校の生活に慣れながら、安心した学校生活を送る。

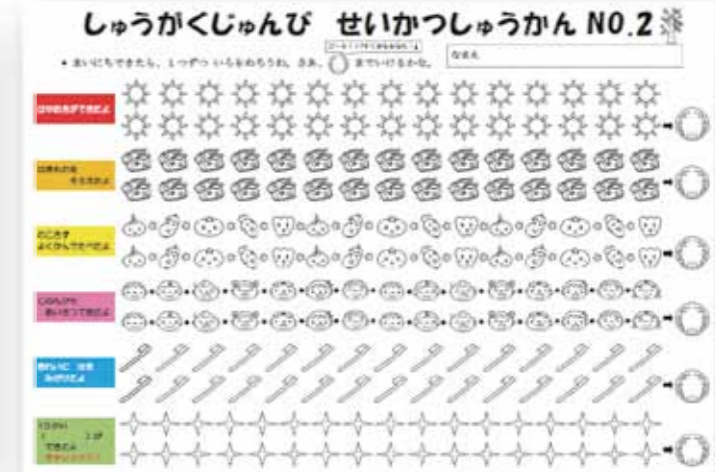
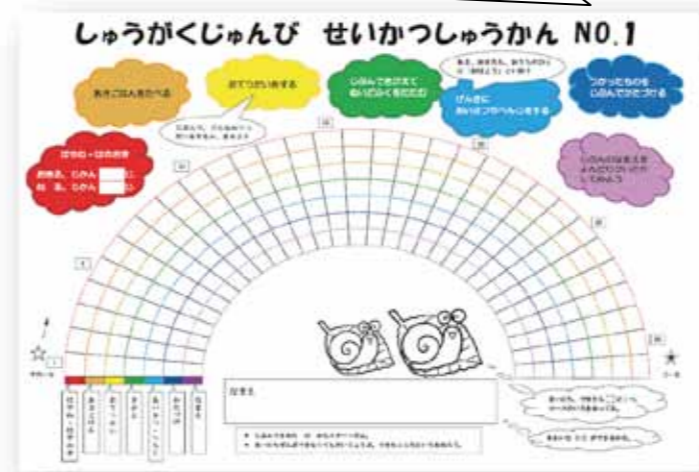
- ・基本的な生活習慣の確立をめざし、自分のことが自分でできるようにする。
- ・ルールを守りながら、みんなで協力して活動していけるようにする。
- ・何事にも意欲的に取り組み、最後まで粘り強くやり遂げる子どもにしていく。

○年長児の親子の不安が安心感と楽しみにつながるように、【初めまして！～うちの子紹介シート～】を作成し、保護者に配布。園で集や上級生とつなが

環境の工夫・柔軟な時程の工夫・個への対応・声かけの工夫 (モジュール学習などを取り入れつつ、小学校の時間割に無理なく慣れさせる。)

○生活習慣の定着に向け、めあてをもって楽しんでできるよう教育委員会で作成し、市内各園所に配布。可視化をしながら家庭の中で子ども自ら、進んでできるよう応援する。

園・所と小学校そして家庭をつなぎアプローチからスタートへのスムーズな移行ができるようにする。



幼 小学校の教員に園児になりきってもらい、異年齢交流・触れ合い遊び援助の在り方を体験してもらうことで、どの学年も連続性を大切に就学

小 壁面制作や保育環境を見たり、実際に幼児の気持ちを知ったりすることで、発達段階を感じることができ、保育で大切にされていることを知ることができた。

「遊んだ後の話し合い」を再現する。幼児の発達段階に応じた活動や生活・を見据えた保育の展開をしていることを知っていただくよい機会となった。

幼 保護者の不安を取り除くために、交流内容の発信や就学に対する意見交流会を実施するとともに、『うちの子紹介シート』を作成した。

小 幼稚園保護者の思いや願いを知り、入学説明会で生かすことができる。同学年の友達や上級生とつながるきっかけとなるよう、『はじめまして！うちの子紹介シート』を活用する。



幼 子どもの姿から、どのようなねらいの指導案にするかを明確にしたことで、幼児たちが主体的に行動し活動することができた。

小 昨年の交流会の経験をもとに、1年生なりに楽しい活動になるようグループ活動のめあてをたて、交流会に臨むことができた。



情報の交換・発信

- 園だより・学校だよりの交換
- 『うちの子紹介シート』での情報交換
- 保護者へのおたより
- 先輩保護者との懇談会

教職員同士の相互理解

- 保育の疑似体験
- 合同研修会

つながる

学びを深める要素

指導計画の作成

- 交流活動の計画を作成
- 幼小の育てたい子どもの姿（ねらい）を明確にし、指導計画を作成
- 事前事後の話し合いの時間を確保



小学校はこんなところだよ。また、きてね。

みんな大きくなったね。小学校はどう？



プールが深くて、広がってびっくりした!

園の先生が小学校へ

この棒の、この辺までであるよ。

幼稚園と違って広いね。

お兄ちゃんお姉ちゃんが、運動会に案内してくれるんだ!

校内探検



横原東小学校1年生・横原東幼稚園交流会 カリキュラム

テーマ	「あきみつけ」			
	小学校1年生 ねらい	幼稚園 ねらい	小学校1年生 ねらい	幼稚園 ねらい
・園庭に秋見つけをする ・約束を守って、なかく活動する	秋の自然の中で、見つけたこと・感じたことを伝える。 ・1年生と一緒に活動する喜びを味わう。			
0分	・あかでの園庭 ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする
5分	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする
10分	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする
15分	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする
20分	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする
25分	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする
30分	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする
35分	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする
40分	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする	・園庭に秋見つけをする ・園庭に秋見つけをする

幼 交流活動を積み重ねていくことで、幼児が小学生の優しさを感じたり、安心して自己表出することができたりする等、自己肯定感の向上につながった。

小 学校では、上級生からしてもらおうことが多い1年生だが、主体的に活動し発信するよい機会となった。



運動会



川西町 接続期 カリキュラムモデルプラン



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

5歳幼児期

接続期の子どもとの段差と見通し

小学校1年生6歳前期(4月)

生活する力

人と関わる力

学びに向かう力

健康な心と体

- ・早起きを心がけ、朝ごはんをしっかり食べられるようにする。
- ・食事のマナーを身に付け、一定時間内で食べられるようにする。
- ・トイレに決められた時間に行ったり、前もって行ったりする。

自立心

- ・身辺整理ができるようにする。
- ・自尊心が得られるよう、よさを認める活動を大事にする。

協同性

- ・目標に向かって、友達と協力してやり遂げられるようにする。
- ・個の遊びから、集団での協同的な遊びに広げていく。

道徳性・規範意識の芽生え

- ・「してよいこと」「よくないこと」に気付き、集団を意識して生活する。
- ・ルールを守って集団遊びをする楽しさを味わう。

社会生活との関わり

- ・元気に挨拶をする。
- ・身近な人や友達に親しみをもって関われるようにする。

思考力の芽生え

- ・興味・関心のあるものに夢中になれるようにする。
- ・経験したことをもとに遊びを工夫する。

自然との関わり 生命尊重

- ・身近な自然に関わる感動体験を多くもてるようにする。

数量・図形、文字等への関心・感覚

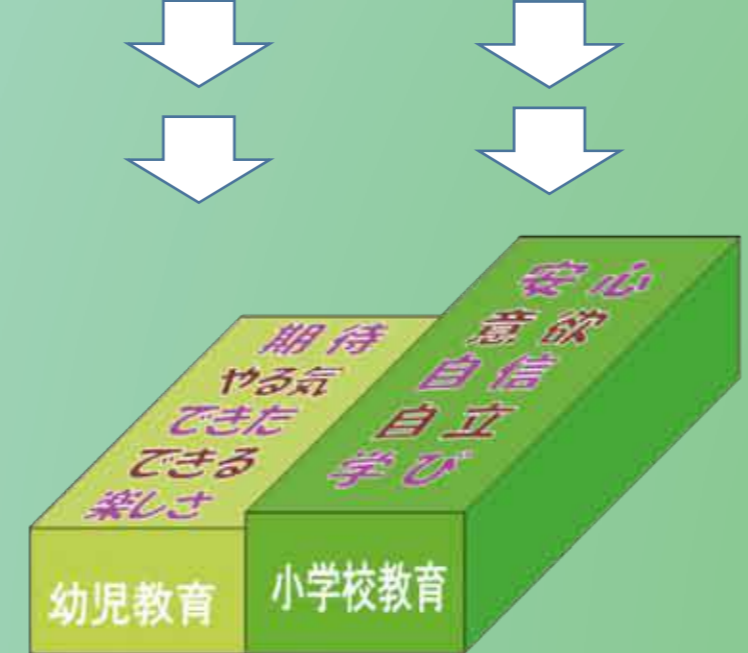
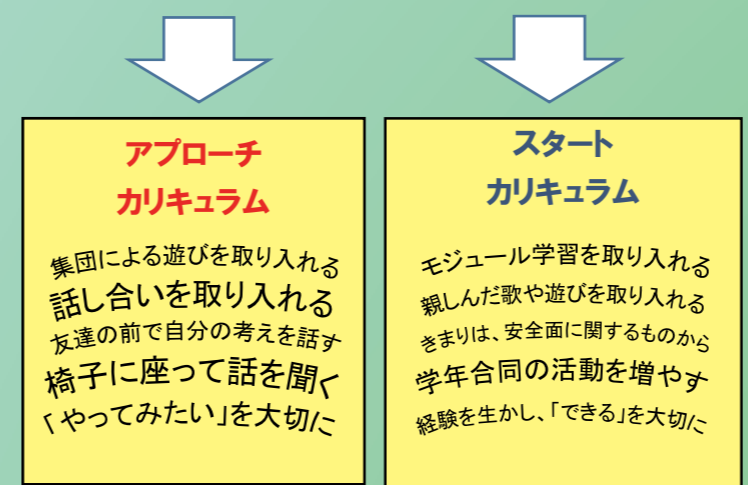
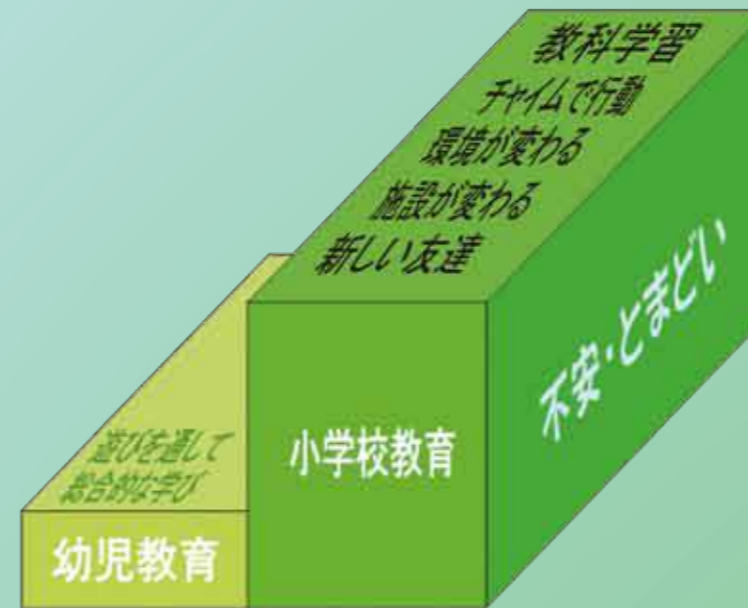
- ・生活や遊びの中で文字や数に触れて、興味をもつ。
- ・数えたり、比べたりして遊ぶ。
- ・生活や遊びの中で色や形、大きさなどの違いに気付く。

言葉による伝え合い

- ・感謝の気持ちを持ち、その気持ちを伝えられるようにする。
- ・困っていることやしてほしいことを自分の言葉で伝える。
- ・相手の話に関心を持ち、話す人を見て最後まで話を聞く。
- ・言葉でのやりとりを通して、気付きや思いを深められるようにする。
- ・大勢の人の前で話す経験をする。

豊かな感性と表現

- ・簡単な制作活動で材料、用具の扱い方を体験をする。
- ・歌やリズムを楽しみ、音楽に親しむ。



- ・早寝・早起きをし、朝ごはんをしっかり食べて登校できるようにする。
- ・チャイムを意識した生活ができるようにする。
- ・当番活動など責任をもってできるようにする。

- ・授業に必要なものを考え、机上を整えて学習ができるようにする。
- ・達成感が得られる活動を大切にする。

- ・小グループでの活動を大切にしながら、集団活動に慣れていく。
- ・ルールを守って楽しく活動する。

- ・個人の物、みんなで使う物を区別し、大事にする。
- ・移動・整列の仕方など集団行動について知る。

- ・自分から挨拶をする。
- ・園での遊びを通じた学びを生かし、生活科による合科的な学習をする。

- ・子どもの興味・関心をもとにした学習活動を大事にする。
- ・短時間の活動を組み合わせるなどして、集中できるようにする。

- ・植物、虫などの自然にふれ、自然から感動体験を味わう。

- ・生活・学習場面で文字や数にふれ、その意味や書き方を知る。
- ・生活・学習場面で人やものの数を数える活動を大事にする。

- ・感謝の気持ちを持ち、その気持ちを伝えられるようにする。
- ・困ったこと、してほしいことを言葉で伝えられるようにする。
- ・最後まで話が聞ける姿勢を大切にする。
- ・言葉でのやりとりを通して、気付きや思考を深められるようにする。
- ・適切な声の大きさと話す、話す人を見て話を聞く。

- ・はさみ・のり・テープなどの用具の特性や扱い方を知る。
- ・簡単な曲を歌ったり、リズムを楽しんだりして音楽に親しむ。

つながる 学び ~アプローチ チカリキュラムをいかして~

アプローチ カリキュラム事例「ぐりんじゅーすのレシピを作ろう！」(5歳児 7月)

【子どもの実態】

5月の始めから、身近にある草花を遊びに取り入れ、ちぎる・すり潰す・刻む・混ぜ合わせるなど、いろいろなことを試して遊んでいた。遊びを継続する中で、葉や花びらの種類によって色や手触り、濃度や香りなどが異なることに気が付くようになり、出来上がったものを料理やジュースに見立てるようになった。

友達と見せ合う中で、同じ材料を使って作っても、一つ一つが違うことにおもしろさを感じ、自分で作ったものの特徴をよく捉え、名前を付けることを楽しむようになった。自信作が出来上がると「このまま残しておきたい！」という気持ちが芽生えてきたが、作ったものを保存することが難しいので、「どうしたらいいかな？」と子どもたちと考えを出し合った。そんな中で、「またもう一度同じものを作れるようにレシピを作ろう！」というアイデアが上がり、材料と作り方を書いたレシピ作りが始まった。

【保育者の援助】

- ・量りや計量カップ、砂時計など遊びの中で数量にふれる楽しさを感じられる用具を使いやすいように準備しておく。
- ・レシピをその場で書き留めたり、一つ一つの特徴や発見やひらめきを具体的に認めたりすることで、遊びに満足感を感じるとともに、より意欲的に遊びを楽しめるようにする。
- ・友達と感じたことや思ったことを伝え合う姿を認め、必要に応じて言葉での表現の仕方を共に考えたり、相手の考えを受けとめられるように仲立ちしたりする。

【遊びを通して育てたい力】

学び	幼児期のおわりまでに育ってほしい姿10項目	資質・能力の分類
自然物に触れ、試す・調べる・見付ける中で五感を通して豊かに表現する。	自然との関わり、思考力の芽生え、豊かな感性と表現	思考・判断・表現力等の基礎
比べたり、量ったりしながら、数字や量・重さ・文字などに興味をもつ。	数量・図形、文字等への関心・感覚	学びに向かう力・人間性等
友達のアイデアを認めたり、友達の思いを共有したりしながらその過程を楽しんだりする。	協同性	思考・判断・表現力等の基礎
自分の思いを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりする。	言葉による伝え合い	思考・判断・表現力等の基礎
遊びの身支度や後始末をする。	自立心	学びに向かう力・人間性等

数量・文字等への関心・感覚

もう少しお水を足そうかな。



はち、よん、・・・何て読むのかな？



最初の頃

学びに向かう力・人間性

1年 算数科

「のこりはいくつ ちがいはいくつ」身の回りから求残や求補、求差の場面を見付け、ことばで表したり、減法を用いて解決したりしようとしている。

1年 算数科

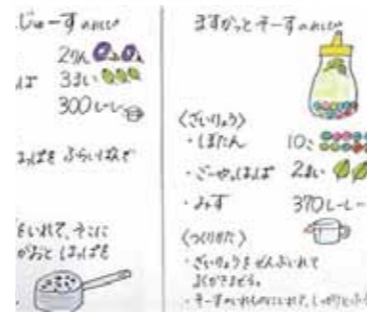
「10までのかず」身の回りのものの個数を数えたり、数詞や数字で表したりしようとしている。

1年 国語科

「うたにあわせて あいうえお」楽しくリズムをとり、声に出して読もうとしている。



レシピの本



工夫を重ねてバージョンアップ

思考力の芽生え

協同性



思考・判断・表現力等の基礎

1年 生活科

「がっこうにいるひとと なかよくなるう」人への接し方やマナーなどを考えて行動している。自分たちの学校生活を支えている人々の存在や、その働きが分かっている。



【つながる学び】

幼児教育の遊び

学びの芽生え

「やってみよう！」

「できた！」

小学校での教科学習

学びをつなぐ

自覚的な学び